

党（員）の任務

党組織の原則のこの評価から、協議会の採択した組織政策の方針がおのずから、出てくる。非合法党組織を強化すること、あらゆる活動分野に党細胞をつくること、まず第一に、「たとえ少数でも、それぞれの工業企業に純粋に党的な労働者委員会」をつくること、労働者自身のなかから出てきた社会民主主義運動の指導者の手中に指導的機能を集中すること——これが今日の任務である。そして、これらの細胞および委員会の任務は、もちろん、あらゆる半合法組織と、できるだけ合法組織とを利用すること、「大衆との緊密な結びつき」をたもつこと、社会民主党が大衆のあらゆる要望にこたえるように活動の方向をさだめることでなければならない。各細胞およびそれぞれの党労働者委員会は、「大衆のなかでの煽動・宣伝活動および実践＝組織活動の拠点」にならなければならない。すなわち、大衆の行くところにはかならず行き、大衆の意識をたえず社会主義の方向に押しすすめ、一つ一つの部分的な問題をプロレタリアートの一般的任務と結びつけ、一つ一つの組織的企図を階級的団結の仕事に変え、自己の精力、自己の思想的影響によって（もちろん、自分の肩書きや地位によってではなく）、プロレタリアのあらゆる合法組織内で指導的役割を獲得するようつとめなければならない。ときにはこれらの細胞や委員会の成員はきわめて少数であるかもしれないが、そのかわり、それらのあいだには、党の伝統と党組織の結びつき、一定の階級的綱領があるだろう。こうして、二人か三人の社会民主党員でも、無定形の合法組織のなかに解消してしまわないで、あらゆる条件、あらゆる事情、ありとあらゆる状態のもとで、自己の党的方針を遂行し、環境にのみこまれないで、全党の精神で環境に働きかけることができるだろう。

……—いつ、どこでも、自覚した社会民主党員は大衆のまえに立ってすすむであろうし、いつ、どこでも、彼らは党の精神で大衆に働きかけるためにたがいに団結するであろう。そして、階級の党であることを公然たる革命のなかで証明し、数百万の大衆をストライキにも、1905年の蜂起にも、また1906～1907年の選挙にも導くことのできた社会民主党は、いまなおひきつづき階級の党、大衆の党であること、もっとも困難な時代に全軍から分離しない前衛であることができようし、全軍をたすけてこの困難な時代をのりきらせ、その陣列をあらたにうちかため、つぎつぎと新しい闘士を養成していくことができるであろう。

……大衆と結びついた堅忍不拔な活動をやれるように自分をつよめることのできる党、先進的階級の前衛を組織することができ、プロレタリアートの生活の一つ一つの現れに社会民主主義の精神で働きかけるように自己の勢力をふりむける先進的階級の党、この党はどんなことがあっても勝利をおさめるであろう。 注) ……は青山の略

第15巻 P339~341 『大道へ』

『ソツィアル-デモクラート』第二号、1909年1月28日（2月10日）

ポイント

各細胞およびそれぞれの党労働者委員会は、「大衆のなかでの煽動・宣伝活動および実践＝組織活動の拠点」にならなければならない。すなわち、大衆の行くところにはかならず

ず行き、大衆の意識をたえず社会主義の方向に押しすすめ、一つ一つの部分的な問題をプロレタリアートの一般的任務と結びつけ、一つ一つの組織的企図を階級的団結の仕事に変え、自己の精力、自己の思想的影響によって（もちろん、自分の肩書きや地位によってではなく）、プロレタリアのあらゆる合法組織内で指導的役割を獲得するようつとめなければならない。

きわめて少数であっても、二人か三人の社会民主黨員であっても、無定形の合法組織のなかに解消してしまわないで、あらゆる条件、あらゆる事情、ありとあらゆる状態のもとで、自己の党的方針を遂行し、環境にのみこまれないで、全党の精神で環境に働きかけなければならない。

なぜなら、党が、大衆と結びついた堅忍不拔な活動をやれるように自分をつよめることのできる党、先進的階級の前衛を組織することができ、プロレタリアートの生活の一つ一つの現れに社会民主主義の精神で働きかけるように自己の勢力をふりむける先進的階級の党であるならば、この党はどんなことがあっても勝利をおさめることができるであろうから。